資料３－１

次期総合計画策定に向けた委員からの提言等について

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| № | 提言者 | 提言等内容 |
| １ | 工藤委員 | ○「幸福」という指標について  「幸福」という指標は、より多くの県民に受け止められやすいと感じ、また、現計画から発展して、「幸福」というより上位の指標で評価しようと発展している点でますます良い岩手県をつくり出していけるのではないかという期待を持つ。  一方で、「幸福」という言葉の持つ印象から宗教的なものに流れていってしまうのではないかと懸念や、「幸福」は「他からもたらされるもの」というイメージ（例えば行政が県民を幸福にしてくれる）で他力本願的ものに受け止められる可能性があるのではないか。  よって、県の計画の目標とするには、「幸福」を指標と設定する理由と、「幸福」という言葉のイメージについて誰にでもわかりやすい形で説明する必要があるのではないか。  説明の例として、「幸福」を指標として活用するにあたっては県の力を「経済指標」で評価することに限界があるので経済指標を含む目標を「幸福度」を指標として持ち「より高い幸福度」向かって計画を立てるという内容であることをわかりやすく説明していただきたい。  特にも「経済指標だけを活用することの限界」についてもう少し丁寧に触れても良いのではないか。また「幸福」が持つ「他からもたらされるもの」というイメージに捉えられないように「幸福は県民が一体となって努力によってつかみ取るもの」という力強いイメージを強調していただきたい。 |
| ２ | 平野多佳子委員 | ○幸福について  　幸福とは、心が満ち足りていることであり、不平・不満がなく、楽しいこと。不幸になる原因を知り、それを取り除くことで、それは個人の問題ではないか。 |
| ３ | 三上委員 | ○「幸福」というキーワードについて  　「幸福」というキーワードだけでは抽象的で分かりづらいので、具体的な事例が欲しい。 |
| ４ | 平野順子  委員 | ○策定後の取組み等について  　「幸福」については、多種多様なとらえ方があるが、大きな概念に真正面から向き合う基本姿勢が素晴らしいと思う。  　ただし、施策に落としていく段階で、個々の多様性にあわせるのが難しくなっていくと思われる。  　全県民にとって良いものではなくとも、県民の最大公約数のようなものになるように計画策定段階はもちろん、取組みがスタートしてからも出来るだけ、多くの県民からフィードバックを得続けることが重要と感じる。 |
| ５ | 八重畑委員 | ○計画策定にあたっての県民からの意見聴取について  次期総合計画策定に向けて、「ありとあらゆる主体に意見を求める」としているが、多くの方々から意見を聞く機会を作って欲しい。 |
| ６ | 八重畑委員 | ○対象人口の調査年について  県民意識調査に記載されている対象人口は、何年の調査結果ですか？ |
| ７ | 小笠原委員 | ○指標（森林面積割合）について  　指標例として“森林面積割合”を挙げていただいているが、これだけだと、森林のクオリティについてあいまいになってしまう恐れがあることから、その点にについて考えを伺いたい。 |
| ８ | 八重畑委員 | ○復興と次期計画について  被災地の復興について、被災地の方々の意向を確認し、今の現状にあった施策を検討して欲しいと思います。 |
| ９ | 三上委員 | ○現計画の施策の結果について  　現計画の施策の結果がどうだったか知りたい。 |